

か報告がなく gonadotropinoma は初めてと思われる。これらは優性遺伝すると考えられているが、原因遺伝子は不明である。一般に家族発生の場合には若年発症するが、今回の家系は高齢発症であることから全く偶然の産物である可能性は否定できないが、今後機会があれば遺伝子検索をしたいと考えている。

## 9 当院における悪性リンパ腫の治療経験

本山 浩・山下 慎也・関原 芳夫  
外山 孚・竹内 茂和\*

長岡赤十字病院脳神経外科  
長岡中央総合病院脳神経外科\*

【はじめに】中枢神経系悪性リンパ腫は、放射線治療 (RT) のみでは再発率が高く、median survival time (MST) は 18 ヶ月であり、その後、全身の悪性リンパ腫に用いられている CHOP, MACOP-B 等の化学療法を加えても RT 単独の MST を凌駕するものではなかった。特に高齢者においては RT 後の late encephalopathy が問題となって performance status (PS) を下げる結果となる。そこで、最近では血液脳関門を通過する MTX  $1\text{g}/\text{m}^2$  以上の high-dose MTX を主体とした preirradiation chemotherapy により radiation dose 減らし、late encephalopathy の危険性を減らしつつ MST33 ~ 42.5 ヶ月と良好な成績をあげている報告がみられる。

【結果】当院で過去 10 年で病理診断のついた中枢神経系悪性リンパ腫は 13 例で、このうち RT を先行 (CHOP, MACOP-B 等の化学療法を加えている例が 4 例) させた 10 例の MST は 13 ヶ月と満足すべき成績はえられなかった。そこで、最近の 3 例 (1 例は他院) では ProMACE-MOPP hybrid 新大変法に準じた治療をおこなった。ProMACE-MOPP hybrid 新大変法の特徴は、MTX  $0.5\text{g}/\text{m}^2$  と全身投与量としては他の regimens に比べやや少なめであるがこれを MTX  $10\text{mg} \times 4$  intraventricular via Ommaya を併用することで補い、late encephalopathy の危険性を減らすために whole brain radiation dose を 20Gy と最小限にと

どめている点である。

症例 1 は、68 歳の女性で ProMACE-MOPP hybrid 新大変法を radiation なしで 3 クール施行し CR, time to tumor progression (TTP) 45 ヶ月で KPS 90 % を保ち survival 49 ヶ月と良好な成績が得られた。

症例 2 は、67 歳の女性で ProMACE-MOPP hybrid 新大変法を MTX i.t. (一), radiation なしで 3 クール施行し CR, TTP 8 ヶ月で KPS 80 % を保っていたがその後、再発を繰り返しその度 ProMACE-MOPP hybrid 新大変法を MTX i.t. (一), radiation なしで 1 クール施行し CR となったが 14 ヶ月目に KPS 60 % まで落ちて再発 whole brain radiation 20Gy 施行し CR, KPS 70 % まで回復し現在 18 ヶ月目で生存中である。

症例 3 は、54 歳の女性で ProMACE-MOPP hybrid 新大変法を MTX i.t. (一) で 1 クール施行し CR, KPS 100 %, whole brain radiation 20Gy 施行し現在 4 ヶ月目で follow up 中である。

【結語】今後、初期治療として、ProMACE-MOPP hybrid 新大変法を徹底させることで late encephalopathy による PS の低下を減じつつ良好な survival が得られるように症例を積み重ねていきたい。

## 10 当科にて経験した頭蓋内悪性リンパ腫 5 例の治療と QOL について

新保 義勝

糸魚川総合病院脳神経外科

メソトレキセートの大量療法の導入により、頭蓋内原発悪性リンパ腫の生命予後は飛躍的に延長している。そのため、初期治療後どのように日常生活を送ることができるかは重要な問題であると思われ、今回当科にて経験した 5 例について、治療と QOL を調べた。症例 47 から 71 才、男性 3 例、女性 2 例。手術ないし細胞診で診断し、初期治療としては ProMACE-MOPP hybrid 新潟大学変法、(P-M) が 3 例で、頭部照射が 2 例で選択されていた。再発時は P-M が施行された。結果 5 例中 4 例で再発しているが、全例生存され、(( ) 内は罹病期間ヶ月)、現在の Karnofsky Scale は 30 %